

ちめいとうだより

基本理念

地域の皆様の健康と生命を守り、心のこもった医療と福祉を提供できる施設



撮影者：青木 志織

<<目次>>

- *1 頁 表紙 『大湯水と森公園から望む 白鳥と権現岳・鉾が岳』
- *2 頁 『ちめいどうまつり 2024 を開催しました』
- *3 頁 門野医師 『日本の医師養成の歴史』 *4 頁 Iyey 『相撲との出会い』
『くびきのだより』 *5 頁 『訪問看護通信』
- *6 頁 『午後外来開設のお知らせ』
- *7 頁 連載 第8話 『看護婦界の大先輩として』 *8 頁 外来診療担当表



Youtube 始めました！



お手持ちのスマートフォン等で
QRコードを読み込むとYoutubeが
見られますよ！ぜひご覧ください！
チャンネル登録もぜひお願いします！！

または

医療法人知命堂病院 Youtube



で検索！

医療法人 知命堂病院
〒943-0834 新潟県上越市西城町 3-6-31
TEL 025-523-2161 FAX 025-526-1511

併設 訪問看護ステーション HPはこちら！
介護老人保健施設 くびきの
指定居宅介護支援センター
地域包括支援センター たかだ



ちめいどうまつり 2024 開催しました！！

2024年10月12日（土）2019年以来、5年ぶりにちめいどうまつりを開催しました♪
久しぶりの開催ということもあり、準備にもより一層チカラが入りました 🥰🍁🌟
地域のみなさまとの交流を深める良い機会となり、沢山の笑顔 🥰 に包まれた一日となりました。
多くの方々にご来場いただき、おかげさまで盛況のうちに終えることができました。
ご来場くださったみなさま、ご協力くださった方々にあらためて感謝申し上げます。
今後も地域に貢献できるイベントの企画、また、引き続きひとりひとりに寄り添った医療サービスの提供に努めていきます。今後ともよろしくお願いたします。



日本の医師養成の歴史

内科部長 門野 聡

今回（第4回目）は明治新政府がイギリス医学ではなくドイツ医学を採択した時の情勢と、瀬尾玄弘（当院開設者）とウイリスの交流を、森川政一（当院第4代院長）著、明治・大正上越医界史（平成2年12月12日、北越出版）から引用して紹介します。

明治元年には英国公使館付医官ウイリスの戦地での活躍により、臨床重視で実践的な英国医学を日本の正統医学とすることが、薩摩藩・土佐藩の重鎮、在野の福澤諭吉、英国公使館の支持によってほぼ決まりかけていました。しかし当時、蘭学以外の西洋医学を学んだ日本人はほぼ皆無であり、当時の蘭方医は蘭医学の源泉であるドイツ医学採用、英国医学受容阻止に向けて運動を開始しました。

明治2年、佐倉順天堂や長崎でボンペあるいはボードウィンから学んだ蘭方医、岩佐純（福井）相良治安（佐賀）の両名が医道改正御用掛として指名され（蘭医学者以外の日本人西洋医はほぼいなかった）、蘭医学の源泉であるドイツ医学採用を強力に画策しました。臨床重視の英国医学あるいは学理・研究重視のドイツ医学いずれを選ぶべきか、政府の廟議にかけられましたが、この時の勢力図は以下ようになります。

- ・イギリス医学（臨床重視）派：山内容堂（土佐藩主）、西郷隆盛・大久保利通（薩摩）、福沢諭吉、後藤象二郎（土佐）、ウイリス
- ・ドイツ医学（学理・研究重視）派：相良治安（佐賀藩）、岩佐純（福井藩）、大隈重信（佐賀藩）、副島種臣（佐賀藩）、江藤新平（佐賀藩）、フルベッキ（蘭系米人、佐賀藩校→開成校教頭）

佐賀鍋島藩重鎮が反イギリス医学となった理由の一つは、1808年のイギリス船フェートン号事件によって、長崎警護の任にあった佐賀藩は、家老以下数名が切腹に追い込まれ、鍋島藩主が閉門処分となり、イギリスに対する仇のような印象があったのではと思われます（筆者私見）。

廟議には岩佐純は欠席しましたが、相良治安が「西洋医学ノ盛ナルモノハ独逸ナリ、英仏八百害アツテ利ナシ、蘭ハ小国日々衰ルノミ、蘭英を排ケテ独ヲ採ルベシ」との熱弁をふるい、また前もって、佐賀藩校で教師を務め開成校（東大の前身）教頭の職にあり、明治政府顧問でもあったフルベッキに依頼して、ドイツ医学採用推薦書を作成してあったこと、イギリス医学派には相良に対して反論できる医者のメンバーがいなかったことなどがドイツ医学採用決定に影響しました。当時から1世紀半を経て、権威主義的ドイツ医学の没落が顕となり、ドイツ医学派の先見の明の欠如を思わずにはいられません（筆者私見）。

相良治安のその後の生き様は佐倉順天堂の同門であった長谷川泰（元長岡藩医：日本医大の前身、済生学舎創設、野口英世を含む約1万名の医師養成をした。本稿第3回参照）から第1大学区医学校長の職を譲り受け、次いで、文部省医務局長となりましたが、不祥事から明治6年免職・投獄され、その後は文部省閑職についていましたが、明治18年離職。離職後は貧民窟長屋に愛人と暮らし、遊女相手の占い師として生活、享年70歳。折角学んだ医学を活用することなく人生を終えました。医を志す若者のロールモデルとなり得ない人物と私見ながら思わずにはいられませんが、地元佐賀では偉人とされていることは驚きです。

ドイツ医学採用決定から、官立（国立）医学校を東京1校（現在の東大医学部の前身）に絞り（当時長崎・大阪にあった官立医学校は閉鎖）、プロイセン（ドイツ）からドイツ人医学教師を招聘、日本人学生にドイツ医学を直伝させ、養成した日本人医学教師を開成校の地方医学校教師や公立病院院長として赴任させる計画が始動され、明治4年夏、レオポルド・ミュルレル（陸軍軍医正：外科・婦人科・眼科担当）とテオドル・ホフマン（海軍軍医：内科担当）が赴任（3年契約）厳格な軍隊式教育が開始され、後任ドイツ人教師に引き継がれました。

一方のウイリスは医学校兼病院長を辞し、鹿児島医学校長へ転身し明治10年西南戦争まで勤めました。ウイリスは鹿児島で高木兼寛（戊辰戦争従軍—鹿児島医学校—海軍軍医—イギリスセントトーマス医学校官費入学し優秀な成績で卒業—海軍軍医総監、東京慈恵会医科大学の前身・成医会講習所設立。脚気の原因を白米主体の食事が原因であることを見出し、日本海軍の脚気発症を激減せしめた。「吉村昭著、白い航跡」参照）を教育したことで有名ですが、当院開設者、瀬尾玄弘もウイリスから医学直伝を受けています。

瀬尾玄弘は（以下、森川政一著、明治・大正上越医界史から引用）、第一次および第二次長州征伐に藩医として従軍、北越戦争では、明治元年9月1日、高田入りしたウイリスの助手を命ぜられ、寺町の来迎寺に設けられた三藩病院（高田藩と薩長二藩の兵を収容した兵站病院）で約10日間の治療助手を勤め、さらにウイリスと共に下越まで行き、新潟病院で取り締まり心得に任命されました。明治2年3月、榊原藩主の出府の供を命ぜられて上京、藩主の許可を得て、すでにウイリスが校長兼院長になっていた病院兼医学校（現東京大学医学部の前身）の傍聴生（聴講生）となり、ウイリスに再会し約4ヶ月間西洋医学を研修しており、直伝の手術が行えるよう、ウイリスに頼んで英国製の手術器械セットを購入しております。明治4年廃藩置県に伴って、現知命堂病院敷地内に病院を開業した時には33歳となっており当時の平均寿命を考えるとかなり高齢でした。彼も高木兼寛や長谷川泰と同様、医学校設立を目指し着実に人材養成を進めましたが、高木や長谷川のように中央政府・軍に仕官せず在野であったこと、首都と異なった環境の困難や明治20年以降の医学校を減らす政府方針の変更もあって夢実現には至りませんでした。

『病気を診ずして、患者を診よ』とは、高木兼寛の残した名言です。高木同様、ウイリス直伝イギリス医学の薫陶を得た当院始祖、瀬尾玄弘も同じ医療倫理観を抱いていたものと思われます。

（続く：次回第5回は明治以降の医師免許と医学校）



警備員 石井 博幸



4月から夜間の警備員として、知命堂病院にお世話になっております。私は海洋高校出身で、相撲部に在籍しておりましたので、相撲のお話をさせていただきます。

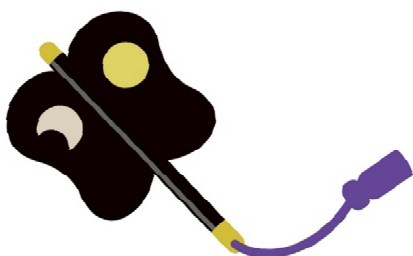
相撲との出会いは、中学3年の時でした。元は柔道をやっていて、『大会に出るから！』と誘われて始めたのが最初です。能生水産（現海洋高校）に入ったら、近所に相撲部の後援会長が居て、入部を誘われました。仲間5人を引き連れて入部、部活として相撲部が成立しました。自分より前の時代には、全国優勝したこともあったようで、優勝旗も部室にありましたが、部員がいなくなっていたようです。

その後、県内では最強で、国体にも出ましたし、全国大会に出場するようになりました。インターハイにも個人戦で出ることができました。自分は身体が小さく、高校時代は68kgくらいでした。同じ頃に糸魚川商工（現糸魚川白嶺）に相撲部ができて、そこに150kgの部員がいて、自分がその150kgの相手を投げたこともあります。相撲の醍醐味は、身体の大きさの縛り無く対戦して、小さい者でも大きい相手を倒せるところですかね。その代わり稽古は厳しかったですね・・・。夏はいつも春日山の時津風道場で合宿、すり足で足の親指は形が変わってしまうし、大変でした。

高校卒業後は仕事が忙しくなって相撲から離れてしまいましたが、結婚して子供ができて、子供が中学に上がり、PTA会長として相撲部に関わりを持つことになりました。相撲部は中学と高校が合同で稽古をしており、部員全員が寮に入ることになっていました。相撲部の大会後の打ち上げや慰労会等に呼ばれて、部員達と交流しました。その中には最近、大相撲で優勝して有名になった中村君（現 大の里）もいました。彼らは総勢20人くらいで、ご馳走する時は、唐揚げ50kg、米30kgを用意したものです。

相撲は階級がなく大きな力士と私のような小兵が対戦することもあります。小さな身体で100kg近く大きな相手を豪快に投げた時の爽快感は忘れられません。相撲の醍醐味です。きつい稽古も今を頑張れる糧になっているように思います。

今後も警備の仕事に活かしていきたいと思いますので、よろしく願いいたします。



訪問看護通信

『冷え対策』

寒さが厳しい季節になってきましたね。



その症状『冷え性』ではないですか？

まずはあなたの「冷え」チェック

- 頭痛や肩こりが気になる
- 体力がなく疲れやすい
- 腹痛や下痢が多い
- 吹き出物や肌荒れが気になる
- 顔や上半身がのぼせる
- 寝つきが悪い



一つでもチェックがいたら
冷えが関係している可能性があります

どうでしたか？自分に当てはまる症状はありましたか？

ここでは、生活習慣から体の冷えを防ぐためのポイントを紹介します。

1. 運動習慣を身に付ける

身体を動かすことで血液の流れが良くなり新陳代謝が促進され体温の上昇につながります。



2. ストレスを溜めない

ストレスが溜まると神経のバランスが崩れて体の末端の血流が悪くなり体が冷えてしまいます。

3. 起床時に白湯を飲む

起床時は体温が最も低く、一日の中で最も水分が失われています。



4. ぬるめのお湯で半身浴をする

38℃～40℃ほどのお湯に入浴することで体を温めることができます。

～冷え性を改善するために食事で気をつけたいこと～

『朝食を食べる』・朝食を食べることによって体温が上昇します。

『たんぱく質を食べる』・筋肉は熱を生み出します。

『冬が旬の野菜を食べる』・生姜、ねぎ、にんじん、ごぼう、小松菜、れんこんなどは身体を温めてくれます。



知命堂病院訪問看護ステーションは看護師
5名のスタッフで活動しています。
病気や介護で困っていること、ご相談など
ありましたらお気軽にご連絡ください。

管理者 植木 光代
TEL 025-522-5539

🌸 午後外来開設のお知らせ 🌸

医療法人知命堂病院では、午後外来を新たに開設することといたしました。
下記のとおり乳腺外来と血液・一般外来の2枠です。よろしくお願いいたします。

乳腺外来（毎週水曜 13:30～15:00）

上越医師会の乳がん検診等で結果が再精査となり、早期に診てもらいたいという方や乳房の痛み・違和感・しこり等でご心配な方は、お電話でご相談ください。専門医が診察いたします。

担当医
診療技術部長・外科部長
武藤 一朗（むとう いちろう）



血液・一般外来（第1・3・5週木曜 13:30～15:00）

貧血、血が止まりにくい、出血する、リンパが腫れている等の自覚症状がある方は、ご相談ください。また、輸血（要予約）にも対応いたしますので、ご相談ください。

担当医
副院長兼内科部長
永井 孝一（ながい こういち）



お気軽にご相談ください！！

連載 <第8話>

看護婦界の大先輩として



一方、大関婦長はさすが熟練看護婦として、知命堂病院在職中は、院長の期待通り新しい看護法を実施し、技術を駆使しています。例えば、院長の次男が気管支肺炎で呼吸困難に陥った時、呼吸吹き込み式のマウスツーマウス人工呼吸法を行ったり、院長夫人が腸チフスで重篤になった時には、約七十日間、献身的に模範的な看病を行って、看護婦の手本を示したのとして院長に感謝され、賞讃されています。

明治29年3月、大関婦長は養成所第1回生を卒業させると、病院も養成所も軌道に乗ったことでもあり、恩師ツルー先生の胃潰瘍の病状が悪化したので、看病のために職を辞したのであります。

しかし、東京へ帰った大関さんの看病の甲斐もなく、ツルー先生は間もなく亡くなり、大関さんは4月には、東京看護婦講習所の指導教師に就任し、明治33年には東京看護婦会々頭に、同42年には、大日本看護婦協会副会長に就任すると同時に、自らも模範的な看護婦を教育するため派出看護婦会を設立しています。

戦争、そしてくり返される伝染病の流行を背景に、雨後の竹の子の如く派出看護婦会が生まれ、なかにはモグリもあり、看護婦の質の低下も著しく、風紀問題も多発、廓清（つもりたまった悪いことを除き清める）運動に乗り出したものです。

明治32年に大関さんが著し出版した『派出看護婦心得』は、東京府で看護婦規則を制定する時に役立っていますし、同40年に刊行した『実地看護法』という本も、年々進歩する治療法は別としても、書かれている看護の基本や精神は今日も立派に通用するものであります。

大関和さんは、昭和7年5月22日、74歳で逝去されましたが看護婦界の大先輩であると同時に、看護婦養成の偉大なる指導者、教育者でもあります。今も看護婦の教科書には必ず名前が出てくる教祖的存在とも言える人です。

知命堂病院附属産婆看護婦養成所の基礎は、このような瀬尾原始、大関和という超一流の2人によって築かれたわけで、時の流れ、時代の要求によって養成所の名称や課程の変更はあっても、このような素晴らしい看護婦養成所は他に類を見ないと断言出来ますし、この養成所を卒業された皆さん方は誠に幸せであります。

養成所が無くなりましても、皆さんが生徒時代に実習をしたり、卒業後勤務した養成所の母体である知命堂病院のある限り、この2人の恩人を忘れることなく、同窓生の皆さん方は常に誇りを持ち続けていただきたいと思います。

最後に同窓会の発展と皆さん方の御活躍を祈念致しまして講演を終らせて頂きます。
御清聴有難うございました。

注) 執筆当時原文まま

(医)知命堂病院 診療担当

外来診療

2024年12月1日～

			月	火	水	木	金
内科	午前	1診(再来)	門野	森川	石橋	森川	石橋
		再来・予約	森川 (予約制)	永井	門野	阿部	森川
		新患・予約外	石橋	門野	門野	阿部 第3: 永井	森川
	午後	新患・予約外	門野	石橋	石橋	第1・3・5 13:30~15:00 血液・一般 永井 第3: 阿部	永井
脳神経内科	午後	3診(再来・新患)				第2・4 14:00~15:00 完全予約制 県中病院医師	
外科	午前	5診(再来・新患)	武藤	武藤・藤田 隔週	藤田	武藤	藤田
		2診 (呼吸器心臓血管)			第1・3 矢澤		
	午後	急患	藤田	武藤	13:30~15:00 乳腺 武藤	藤田	藤田
整形外科	午前	4診(再来・新患)					10:00~12:00 完全予約制 県中病院医師
泌尿器科	午前	再来・新患		9:00~11:30 新屋	9:00~11:30 新屋		9:00~11:30 新屋
	午後			13:30~15:00 新屋			13:30~15:00 新屋

内視鏡検査

		月	火	水	木	金
内視鏡	胃カメラ	藤田				

診療時間 9:00~17:00 (月曜日から金曜日)
 外来診療受付時間 8:30~11:30 (医事課窓口)
 面会時間 10:00~12:00 15:00~20:00 ※現在は対面による面会は禁止となっております。(オンライン面会可)
 休診日 土曜日・日曜日、祝日、お盆(8月15日、16日)
 年末年始(12月30日~1月3日)
 ※ただし、急患の場合はこの限りではありません。

☆看護師・介護員募集☆

~地域医療の一翼を担う私たちと一緒に働きませんか~
 看護師: 夜勤可能な看護師
 介護員: 介護福祉士、ヘルパー2級以上(初任者研修)
 勤務場所: 知命堂病院または介護老人保健施設くびきの
 問い合わせ先: 電話(代表)025-523-2161 事務長



小菅邸庭園より

くびきの入所施設の紹介

「入所」

対象：介護認定「要介護1以上」の方
毎日の健康管理はもちろん、身体ケア・リハビリの他、栄養管理・食事・入浴などの日常サービスまで併せて提供します。

入所期間は原則3カ月間ですが、ご事情等によりご相談に応じています。

リハビリテーションの進行状況に応じて
住み慣れたご自宅への退所支援の他、ご自宅以外で今後のお住まいとなる施設等への退所支援を多職種で行い、ご相談に応じています。

「ショートステイ」(短期入所)

対象：介護認定「要支援1以上」の方
在宅のサービスとして、現在通院されている医療機関の主治医管理のもと、担当されている介護支援専門員（ケアマネージャー）の支援を受けながらご利用いただく短期間の宿泊型介護サービスです。

介護老人保健施設にも常勤の医師・看護師がおりますので、連携させていただきより、安心なサービス提供を行っています。

ご利用期間は、1泊2日から最大4週間です。
1か月以上の場合は「入所」としてご利用いただいています。



上記以外にも定期的に行事をおこなっております。

上記行事の一部について知命堂病院
YouTubeチャンネルで配信
しています。
ぜひ、チャンネル登録をお願いします。



医療法人知命堂病院 介護老人保健施設くびきの

TEL 025-526-2161 FAX 025-526-1156

【HP】 <https://www.chimeido.jp>

【E-ル】 kubikino@chimeido.jp

ちめいどうまつり 2024



10/12（土）に併設施設「知命堂病院」にて、ちめいどうまつりを開催しました。くびきの利用者の作った作品を展示し、参加者に見ていただきました。

※詳細については表面QRコード「知命堂病院YouTubeチャンネル」で配信しています。ぜひご覧ください。

柿もぎを行いました

今年も敷地内の柿の木にたくさんの柿が実り、職員が柿もぎを行いました。収穫した柿の一部を通所利用者さんが、さわし柿にし、おやつで提供しました。来年もたくさん実りますように。



お食事は楽しみ！そして健康への第一歩。

「お楽しみメニュー」の一部をご紹介します。



おやつに水まんじゅうを提供しました。綺麗な色合いとみずみずしさを感じていただけると嬉しいです。



「きのこ炊き込みご飯」にレンコンや梨を添えて秋の季節を感じていただきました。※右下はソフト食



ハロウィンをイメージしました。白砂糖が付いているパンに「懐かしい」という声がありました。